

国際財務報告基準(IFRS)と日本基準との差異について(2020年3月期)

本日発表のIFRSに基づく2020年3月期決算に関し、IFRSと日本基準との主要な差異は以下の通りであります。

1. 連結損益計算書

(単位:億円)

項目	日本基準	IFRS	差異金額
売上収益	14,185	14,188	+ 3
事業利益	-	375	+ 375
営業利益	346	161	△ 185

注) 売上収益から売上原価と販売費及び一般管理費を控除したものを「事業利益」として開示しております。

(差異要因の内訳)

(単位:億円)

項目	差異要因	金額
売上収益	基準差による収益認識時期の調整	+ 3
営業利益	減価償却方法の変更	+ 38 (※1)
	のれんの償却停止	+ 6
	従業員給付(有給休暇引当金の計上ほか)	△ 16 (※2)
	営業外損益・特別損益(表示組替)	△ 211
	その他	△ 2
	合計	△ 185

2. 連結財政状態計算書

(単位:億円)

項目	日本基準	IFRS	差異金額
資産 合計	12,120	12,442	+ 321
負債 合計	6,942	7,126	+ 183

(差異要因の内訳)

(単位:億円)

項目	差異要因	金額
資産	非上場株式の公正価値評価	+ 310 (※3)
	その他	+ 11
	合計	+ 321
負債	従業員給付(有給休暇引当金の計上ほか)	+ 144 (※2)
	リース負債の計上	+ 43 (※4)
	その他	△ 4
	合計	+ 183

- (※1) 日本基準では主として定率法を採用していましたが、IFRSでは定額法を採用しております。
- (※2) 日本基準では未消化の有給休暇に対し負債を認識しておりませんが、IFRSでは未消化の有給休暇に対し負債を認識しております。
- (※3) 日本基準では非上場株式については取得原価を基礎として測定しておりますが、IFRSではその他の包括利益を通じて公正価値で測定しております。
- (※4) 日本基準ではファイナンス・リースに係る資産・負債のみを計上していましたが、IFRSでは全てのリース契約に係る資産・負債を計上しております。

以上